



今年も旧盆の季節が訪れました。夜になると、エイサー練習の音が心地良く聞こえてきます。毎年、地元青年会や子ども会がウンケーの時に当寺に演舞を奉納参拝に来ます。有り難い事です。ところで、エイサーの由来や仏教との関わりをご存知ですか？ 今月はエイサーについてお話ししましょう。

エイサーと袋中上人 たいちゆう 良啓

千六百三年（江戸時代）に一人の僧侶が琉球にやって来ました。僧の名は袋中と言ひ、陸奥国磐城郡（現在の福島県いわき市）出身で浄土宗の学僧として、明（現在の中国）に渡り本場の仏教を学ぶ為に、琉球王国で明行きの船を探していました。あいにく船は無く困っていたところ、時の国王尚寧の深い帰依を受け、浄土宗の布教を行いました。

浄土宗では、念仏踊りと言って、踊りながら念仏（浄土宗の基本教義）を唱えると言う布教スタイルがあります。袋中上人は、これに琉球固有の踊りを融合させ、エイサーの基礎を編み出しました。始めは布教の一環でしたが、段々と先祖供養へと変化して、旧盆の祖霊供養になったと言われています。その頃の形式が残っているのが勝連半島平敷屋です。平敷屋エイサーは、派手な衣装は使わず、パーランクーに白と墨染の衣でゆったりとした動作です。これに対して、現在のエイサーの主流は、大太鼓に金銀朱色の派手な衣装を着て、跳躍や激しい動きを特徴としています。さらに、近年は、結婚式などのお祝いの席でも披露される事も多くなりました。もう宗教的側面だけでなく、沖縄の伝統芸能へと昇華しました。

この様に見てみますと、夢である中国行きを断念せざるを得なかった袋中上人ですが、四百年後に自分が蒔いた念仏の種がこんなに大輪の花を咲かせるとは思ってもみなかった事でしょう。何とも不思議な仏縁ですね。

十三仏 ② 釈迦如来 裕俊  
十三仏とは、初七日から三十三回忌の追善供養を司る仏さまのことです。今回は、二・七日忌の本尊「釈迦如来」様をご紹介します。

ご真言

のうまく さんまんだ ぼだな  
ん ばく

釈迦如来様はインドで二千五百年程前に実在した人物で、ブツダやお釈迦様などと親しまれる仏教の開祖です。釈迦牟尼仏（しゃかむにぶつ）と呼ぶこともあります。シャカ族という部族の王子だったので釈迦と呼ばれています。ゴータマ・シッダールタというお名前があります。

「如来」とは、仏様の位で一番上の位で、「菩薩」が修行中の仏様であるのに対し、「如来」は悟りを得た仏様を指します。

初七日で不動明王様に迷いを断ち切って頂き、二七日では釈迦如来様に仏の道を歩む心構えを教えてもらいます。

